

地域福祉推進に関する アンケート調査への御協力をお願い

平素は本市の地域福祉の推進に御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

京都市では、今後の地域福祉推進事業の在り方等の検討を進めていくために、地域福祉活動に参加されている皆様を対象にアンケート調査を実施することに致しました。

この調査で得られた結果を貴重な資料として有効に活用してまいりたいと考えておりますので、本調査の趣旨を御理解いただき、御協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、御記入いただいた内容については、統計的に処理致しますので、個々の調査票が本調査の目的外に使用されることは一切ありません。

【御記入に当たってのお願い】

- 1 お答えは、該当する番号を○で囲んでください。(複数回答可)としているもの以外は、お一つをお選びください。また、[] 内には必要なことがらを可能な限り自由に御記入ください。
- 2 問1～問5までは全員の回答者が、問6～問12まではボランティアグループやサークル、NPO法人、民生委員、主任児童委員、区・学区社会福祉協議会関係者等の回答者（個人も含む）だけが、お答えください。
- 3 アンケートは、表紙を含め3枚で両面あります。
- 4 アンケート用紙には、お名前や団体名を御記入いただく必要はありません。
- 5 このアンケートについて、御不明な点や御質問がありましたら、お手数ですが下記のところまでお問い合わせください。

(お問い合わせ先)

京都市役所 保健福祉局 生活福祉部 地域福祉課 地域福祉担当

電話 (075) 251-1175 ファックス (075) 256-4652

地域福祉の推進に関するアンケート調査票

◎ 問1～問5までは全員の回答者が、問6～問12まではボランティアグループやサークル、NPO法人、民生委員、主任児童委員、区・学区社会福祉協議会関係者等の回答者（個人も含む）だけが、お答えください。

問1 性別及び年齢をお教えてください。

(性別) 1. 男 2. 女

(年齢) 1. 10代 2. 20代 3. 30代 4. 40代 5. 50代 6. 60代
7. 70代 8. 80代以上

問2 ここ5年の間に、身近な地域における福祉活動について、活発になってきたと思われますか。

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. かなり活発になった | 2. 少し活発になった |
| 3. 変わらない(以前から活発) | 4. 変わらない(以前から低調) |
| 5. 低下してきた | 6. かなり低下してきた |

◎ 選択肢1～3を回答された方にお尋ねします。具体的にどのようなことが活発に行われるようになってきたと思われますか。(複数回答可)

- | | | |
|---------------------|---------------------|-----------|
| 1. 高齢者の見守り活動 | 2. 高齢者サロン | 3. 子育てサロン |
| 4. 多世代交流活動 | 5. まちの縁側(誰もが集える居場所) | |
| 6. 地域住民による生活支援活動 | | |
| 7. 学生による地域活動への参加 | | |
| 8. 災害時を想定した要援護者支援活動 | | |
| 9. その他 | | |

()

◎ その理由として考えられることは何ですか。(複数回答可)

- | | |
|----------------------------|-----------------|
| 1. 活動団体や参加者が増加した | 2. 活動に対する理解が進んだ |
| 3. 活動内容が充実し、参加しやすい状況になってきた | |
| 4. 活動に対する支援(又は協力)が広がってきた | |
| 5. その他 | |

()

◎ 選択肢 4～6 を回答された方にお尋ねします。地域福祉活動があまり活発でなくなってきたと思われる理由は何ですか。（複数回答可）

1. 活動団体や参加者が減少した
2. 地域のつながりの希薄化が進んだ
3. プライバシーに関する意識が高まり、個人に対して関わりにくくなった
4. 活動団体のスタッフ確保が難しくなった
5. その他

()

問3 現在、地域において課題であると感じていることは何ですか。（複数回答可）

1. 子どもに関する課題（子育て支援、教育、育児不安等）
2. 高齢者に関する課題（介護、生きがいづくり、権利擁護等）
3. 障害児・者に関する課題（地域生活への支援、障害に対する理解等）
4. 地域のつながりの希薄化（子育て世帯や高齢者世帯の孤立等）
5. 地域防犯・防災に関する課題（子どもの見守り、災害時への対応等）
6. その他

()

問4 身近な地域で福祉活動に参加するためには、どのような条件が必要だと思われますか。（複数回答可）

1. 個人でいつでも参加できる仕組みづくり
2. 活動団体の情報提供の確保
3. 活動団体に対する支援の充実
4. 誰もが集える居場所づくり
5. その他

()

問5 その他

今後の地域福祉に関する活動等に対して御意見がございましたら御記入ください。

()

裏面もご覧ください

◎以下の項目（問6～問12）については、ボランティアグループやサークル、NPO法人、民生委員、主任児童委員、区・学区社会福祉協議会関係者等の回答者（個人も含む）だけが、お答えください。

問6 地域における福祉活動を始められてから、どのくらい経ちますか。

1. 半年未満 2. 半年～1年未満 3. 1年～2年未満
4. 2年～5年未満 5. 5年～10年未満 6. 10年以上

問7 地域福祉活動を行ううえで困りになっていることは何ですか。（複数回答可）

1. スタッフの高齢化
2. 新たな人材が確保できない
3. 仕事などで忙しく活動時間が確保できない
4. 活動に必要な情報や支援を必要としている人の情報が得にくい
5. 外部からの活動の依頼に対応しきれない
6. 活動がマンネリ化している
7. 活動資金が不足している
8. 参加者に世代や男女の偏りがある
9. 活動を引っ張るリーダーが育たない
10. 他のグループ・団体と交流する機会が乏しい
11. 活動に対する依頼が少ない
12. 特に困っていることはない
13. その他

[]

問8 他団体やグループとの交流や連携の状況はどのようにされていますか。

1. 定期的に交流や連携をしている団体やグループがある
2. 年に数回程度だけ交流や連携をしている団体やグループがある
3. 交流や連携をしている団体やグループはほとんどない
4. その他

[]

問9 団体間や関係機関とのネットワークの在り方について希望されていることは何ですか。

1. 同じ活動分野でのネットワークを強化していきたい
(例えば保育所や幼稚園, 子育てサークルなど, 子育て支援という形で分野を特定したネットワーク)
2. 他の福祉分野とのネットワークを構築していきたい
(例えば地域ごとに子育てや高齢者, 障害のある方など分野を限定することなく, あらゆる分野を含めたネットワーク)
3. 1と2の両方が必要である
4. 行政(福祉事務所等)とのネットワークの強化
5. 特にネットワークが必要とは思わない。
6. その他

()

問10 今後どのように活動される御予定ですか。

1. 新たな取組の実施や活動の区域を拡大するなど, 活発に活動をしていきたい
2. 現在の活動を維持していきたい
3. 活動を縮小していきたい
4. 活動をやめたい, 又はやめざるを得ない
5. その他

()

問11 近年の全国的な福祉課題の一つとして挙げられる, 地域で住まわれる方の「孤立・孤独」が生じる要因として, どのようなことが考えられますか。(複数回答可)

1. 経済的に困窮していること
2. ひとり暮らしや高齢者だけの世帯が増えていること
3. 飲食や体調管理等, 生活を維持するための最低限必要な行為を行う意欲・能力を喪失するなどのセルフ・ネグレクトの方が増えていること
4. 本人の拒絶等で福祉制度につなげられず, 公的支援が受けられないこと
5. 隣近所のつきあいが少なくなっていること
6. 家庭内のことに他人が立ち入りにくいこと
7. 医療や介護が必要な高齢者が増加していること

裏面もご覧ください

8. その他

問12 地域福祉の考え方ですべての人々が社会的に排除されない、社会全体で包み支えあう社会的包摂（ソーシャル・インクルージョン）という理念が提唱されています。これは、地域で課題を抱える方の「孤立・孤独」を生じさせない大事な考え方と言われています。

「孤立・孤独」を未然に防ぐ取組について、今後、特にどのようなことを充実させていく必要があると思われますか。（複数回答可）

1. 誰もが気軽に出入りできる居場所づくり
2. 複合的な福祉課題に対し、一元的に相談できる体制の構築
3. 住民ぐるみの地域福祉活動がしやすい環境づくり
4. 個人情報の適正な取扱いに関する知識の共有
5. 多様な専門機関が連携した生活支援（就労支援を含む）の取組
6. 郵便・ガス・電気等の民間事業者も含めた見守り体制の拡大
7. その他

（参考）

京都市では、地域包括支援センターの職員等が支援が必要な65歳以上の一人暮らしの高齢者や障害のある方等（要援護者）のご自宅を訪問し、地域の関係機関等に要援護者の個人情報を提供してよいかを確認し、同意の得られた方の情報を社会福祉協議会や民生児童委員等の関係機関に提供することによって、地域における日常的な見守り活動に活用していただき、要援護者の支援体制の充実を図るため、平成24年7月から「地域における見守り活動促進事業」を開始しています。

アンケートに御協力いただき、誠にありがとうございました。